

# 生活保護 基準以下なのに

## 隠れた貧困層 ①

「毎月やりくりしても赤字が出ちゃう……」。埼玉

県の女性(77)が通帳を見てため息をついた。10年前には100万円以上あった貯金が10万円を切った。40代で夫と別れ、子連れで住み込みの寮母などをして息子2人を育てた。清掃員をしていた70歳の時、高齢を理由に仕事を辞めさせられた。その後は年金頼みだ。

女性は厚生年金の加入期間もあり、年金額は月9万円ほど。半分は家賃だ。電話代や光熱費などが1万円強。食費を削っても、貯金は目減りするばかりだ。息子たちが月2万円ずつ援助してくれると言いが、もらえない月もある。それぞれ大変で催促はできない。年金収入だけでは生活保護の基準以下。だが、保護の申請は踏ん切りがつかない。「生活保護は障害や病気に悩む人のための制度だと思ふ。昔から健康に働き、子どもを育ててきたプ

## 減る年金 申請にためらいも

ライドがある」。テレビは見ないし、新聞もやめた。老眼鏡のレンズも合わないが、がまんしている。

2013年秋から、過去の物価下落時に据え置いた分の年金の減額が行われた。「これ以上、どうすればいいの」。女性は減額分の支給を求める集団訴訟の原告団に加わった。

国民年金は満額でもらっても月6万円台に過ぎない。多くの高齢者が低年金に苦しんでいる。一方、生活保護を受ける65歳以上の高齢者世帯は約80万。低年金でも、生活保護で補えていない人たちがいる。

主な理由は生活保護の受給条件の厳しさだ。地域や年齢で決まる「最低生活費」の1ヵ月分が、収入や貯金などで賄えないと判断された場合、保護が支給される。自家用車の所有は原則として不可だ。

親族に支援できる人がいないかもチェックされる。生活保護への偏見から申請をためらう人もいる。社会保障に詳しい都留文

科大学の後藤道夫名誉教授は「日本は丸裸になるまで自助努力に任せる。生活保護に頼れず、福祉の手が届

## 風邪でも働くしか

「隠れた貧困層」は高齢者に限らない。

神奈川県40代女性は、幼児から大学生まで5人の子どもの育てるシングルマ

かない人がたくさんいる」と指摘する。いわば、「隠れた貧困層」だ。後藤氏の推計によると、世帯収入は生活保護の基準以下なのに保護を受けていない人は、少なくとも2千万人を上回る。高齢化が進めば、その数はさらに膨らむ。

を加えても25万円ほどだ。風邪をひいても無理に働く。正社員になりたいが、子どもが小さいうちはあきらめた。仕事を終えて保育園経由で午後7時に帰宅すると、小学生2人がスナック菓子で空腹をみたしている。そのままソファで寝てしまつこともしばしばだ。

「離婚も、子どもを産んだのも自分の決断だから生活が苦しいのはしょうがない。でも、子どもと向き合う時間がほしい」。生活保護が頭をよぎる。調べると、子どもが多い女性は、受給額が月30万円超。今よりずっと楽になる。

だが、父からもらった車と数十万円の貯金があるから、保護は認められないだろう。車は自宅から遠い保育園の送迎に不可欠。貯金は子どもの進学のためだ。

「子どもの将来を守るのも親の責任。せいたくしたいとは思わないけど、生活保護以外に支えてくれる制度はないものでしょうか」

(牧内昇平)

◇ 200万人超の生活保護受給者の後ろに膨大な「隠れた貧困層」がいる。安心して暮らせる手立てはあるのか。4回で報告する。



子どもたちの世話をしながら食卓につく  
神奈川県の女性(左)＝池永牧子撮影